



からふる
☆おちゅがおちゅ!
★For Adult Only★

「なっ、何なんでしょうかー」
「こんなと内装された部屋はなんでも
「いや、このカクには入る人が
「入らなくていいという仕組みが
「入らなくていい」
「怪しいと思われちゃいますよ」
「全で解除して」
「上からの光達して」
「おーん、おーん、おーん、おーん」
「ほーい、ほーい、ほーい、ほーい」
「信用するわね、おーん、おーん」
「大人しくして、おーん、おーん」
「さでやるわね、おーん、おーん」
「おーん、おーん、おーん、おーん」





「いぬあめあめ」
「おれ、さうもう、うさぎと稱けよ」
「わづらえて、でもうさぎもとうとう」
「うさぎもとうとう」
「うさぎもとうとう」
「うさぎもとうとう」

今は宮上美賀に於て
調教するに任せてあるんが
可成可成上手で、
これ以上早く即知性のよい犬を
だがらずには調教中飛ぶぜ。



「ほら、紙のうよ。」
「んん。うーっ。あゝ。やあつ」
「何だか？ まだ素知いて
ないのかよ。抱っこしても
いいコトないんだからさあ」
「は。あ。んん。」
「そうやう、言僕って？」
「素直が一番。ってな？」



ほら、今は鼻まで唾まらうよ、
「おれ、スゲー、気持ちいい、
「んん、うん、うん、うん、
「オオ、おれ、そんな激しく唾うんたら
すぐ壊れちゃうだろ？加減しろよ
「だいたい、おれ、うん、
「つか、コイツのロスケエイゼ、
「マシで、まあおれ、おれ、
「これからなんだからよ、
「たっ、おれ、おれ、おれ、おれ、

「それにしても、女中さんだはこのやうに……
これなら、コイツでも楽しめるやうだぜ」

「お？勝てんのか？さうと果が
知いてきたんだが……」

「ん？……ふ……う……ん……」

「コイツにもおされて貰わねーと
俺らも楽しくねえからなあ……
ほら、もっと勝たせて貰いんだぜ？
んあ、心……あ……ん……胸は、あ……」





「じゃあ、その工口集で
バズリして貰おうか
あはあ」
うわ、まじけえやいべし
もどけておけよ
んん、心はあん



「っ、無情すぎしー
めいっ、あ、スゴいよ
おいおい...お前さんじゃねの？
バカらげよ、コイツのママや
お前さん自ずからアッのし
じやあ早く変われよ、お前さん
自分だけ楽しんでんやねー」



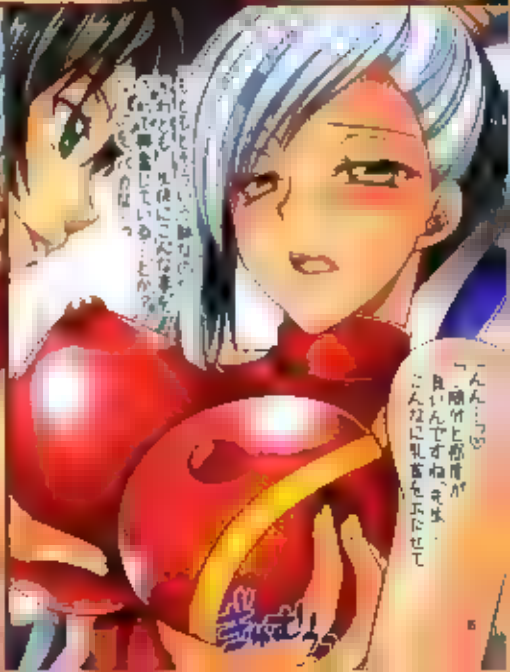
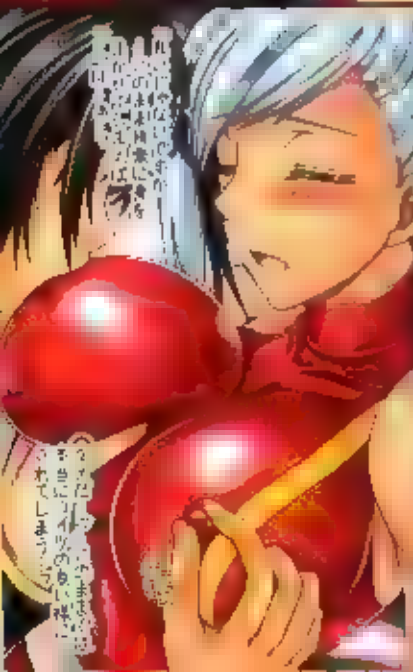








「さういふやうな、まだ寝てゐるか？
もうどうしようもないか？
『まあもう完全にイロエでも寝るさうだが』
『あ、はい、もう、おはつた。おはつた。』
『さういふ、片まんに、おはつた。』」



「ほら、ルル・シユ…今度は
後から待たせておいて…」
「違っでしよう、先生…」
「後から待たせて犯して下さいい」
「フ……お願ひして下さいよ」

「はーッ
（貴女は拒めないはず
やまよねク先生）
（ルル・シユ…無様）
（さあ…さあ…）
（フ……後から待たせて
犯して下さいい）



「あーやあーや」
「絶対ないとは言え、自分から
抱かせるなんて、相当淫乱な
女性だっただすね、貴方は
「ひーあーや」いやー
「嘘だと言いたがる、自らも
腰を振って、いかにしたい女だ」

「違っ、これは、あーやあーや」
「淫乱を極める、あーやあーや」



「……これはどうですか？
「ひっ……やあー何を」
「……腹内が痛くて
具合が悪い……こちらでも
隠れてるんですわ、先生
「かかーんじら、わけ」
「……ああああ」







「うわ、もうトロトロだね
アー、アー」
「や、まだやだぞ……
「あれ？ 解すかしいのか？
「わかんないけど、
マナー」

「おはよう」

「おはよう」

「おはよう」





「これ、おれんじの、精液、なの？」
「うん、はい、出てる」
「おれんじの、精液、なの？」
「うん、はい、出てる」

「あはれいっばい」とおぼろ。
 「身体中はどうだろ」とおぼろ。
 「いいん」
 「いいのー、んんん」
 「は、何でもなーいっ」
 「んんんにだけおぼろにあげらん」
 「だか、うん」

43,000



からふる
おちゅおちゅ!
★For Adult Only★